

■ 解答編（問題 31～ 問題 40）

問 題 31

《解答》

良くない.

$$\begin{cases} f(x) = x^n (x + |x|) \\ g(x) = x^n (x - |x|) \end{cases}$$

とすれば, これらは n 回微分可能で n 次導関数が連続な実関数であり,

$$f(x)g(x) = 0$$

が全ての実数 x について成り立っているが, 当然, 一方が常に 0 をとるわけではない.

問 題 32

まず, 関数列 $g_n(x)$ について, $n \geq 1$ のとき, F_n を $F_0 = 0, F_1 = 1$

$$F_{n+2} = F_{n+1} + F_n$$

で決まるフィボナッチ数列とすれば,

$$g_n(x) = \frac{F_n + F_{n-1}f(x)}{F_{n+1} + F_n f(x)}$$

となることを数学的帰納法を用いて示す。

- $n = 1$ のとき,

$$\begin{aligned} g_1(x) &= \frac{1}{1 + f(x)} \\ &= \frac{F_1 + F_0 f(x)}{F_2 + F_1 f(x)} \end{aligned}$$

より成立。

- $n = k$ のとき,

$$g_k(x) = \frac{F_k + F_{k-1}f(x)}{F_{k+1} + F_k f(x)}$$

であると仮定すると,

$$\begin{aligned} g_{k+1}(x) &= \frac{1}{1 + g_k(x)} \\ &= \frac{1}{1 + \frac{F_k + F_{k-1}f(x)}{F_{k+1} + F_k f(x)}} \\ &= \frac{F_{k+1} + F_k f(x)}{(F_k + F_{k+1}) + (F_{k-1} + F_k)f(x)} \\ &= \frac{F_{k+1} + F_k f(x)}{F_{k+2} + F_{k+1} f(x)} \end{aligned}$$

より, $n = k + 1$ でも成立。

よって, 数学的帰納法から,

$$g_n(x) = \frac{F_n + F_{n-1}f(x)}{F_{n+1} + F_n f(x)}$$

が成り立つ。

次に,

$$F_n^2 - F_{n-1}F_{n+1} = (-1)^{n-1}$$

が成り立つことを数学的帰納法を用いて示す。

- $n = 1$ のとき,

$$\begin{aligned} F_1^2 - F_0 F_2 &= 1^2 - 0 \cdot 2 \\ &= 1 \end{aligned}$$

より, 成立。

- $n = k$ のとき,

$$F_k^2 - F_{k-1}F_{k+1} = (-1)^{k-1}$$

であると仮定すると,

$$\begin{aligned}
 F_{k+1}^2 - F_k F_{k+2} &= F_{k+1}^2 - F_k(F_{k+1} + F_k) \\
 &= F_{k+1}(F_{k+1} - F_k) - F_k^2 \\
 &= F_{k+1}F_{k-1} - F_k^2 \\
 &= -(-1)^{k-1} \\
 &= (-1)^k
 \end{aligned}$$

より, $n = k + 1$ でも成立。

よって, 数学的帰納法から,

$$F_n^2 - F_{n-1}F_{n+1} = (-1)^{n-1}$$

が成り立つ。

これらより,

$$\begin{aligned}
 g_n(x) &= \frac{F_n + F_{n-1}f(x)}{F_{n+1} + F_n f(x)} \\
 &= \frac{F_{n-1}}{F_n} + \frac{F_n^2 - F_{n-1}F_{n+1}}{F_n} \frac{1}{F_{n+1} + F_n f(x)} \\
 &= \frac{F_{n-1}}{F_n} + \frac{(-1)^{n-1}}{F_n} \frac{1}{F_{n+1} + F_n f(x)}
 \end{aligned}$$

ゆえに,

$$\int_0^1 g_n(x) dx = \frac{F_{n-1}}{F_n} + \frac{(-1)^{n-1}}{F_n} \int_0^1 \frac{1}{F_{n+1} + F_n f(x)} dx$$

であるから, $0 \leq x \leq 1$ のとき $f(x) > 0$ から,

$$\frac{1}{F_{n+1} + F_n f(x)} < \frac{1}{F_{n+1}}$$

より,

$$\left| \int_0^1 g_n(x) dx - \frac{F_{n-1}}{F_n} \right| < \frac{1}{F_n F_{n-1}}$$

が成り立つ。

次に, 数列 F_n の一般項を求める。 $x^2 - x - 1 = 0$ の 2 解を $\alpha = \frac{1 + \sqrt{5}}{2}, \beta = \frac{1 - \sqrt{5}}{2}$ とすれば, 解と係数の関係より

$$\alpha + \beta = 1, \alpha\beta = -1$$

よって,

$$F_{n+2} = (\alpha + \beta)F_{n+1} - \alpha\beta F_n$$

とできる。ゆえに,

$$\begin{cases} F_{n+2} - \alpha F_{n+1} = \beta(F_{n+1} - \alpha F_n) \\ F_{n+2} - \beta F_{n+1} = \alpha(F_{n+1} - \beta F_n) \end{cases}$$

よって,

$$\begin{cases} F_n - \alpha F_{n-1} = \beta^{n-2}(F_2 - \alpha F_1) = \beta^{n-1} \\ F_n - \beta F_{n-1} = \alpha^{n-2}(F_2 - \beta F_1) = \alpha^{n-1} \end{cases}$$

これらより,

$$F_n = \frac{\alpha^n - \beta^n}{\alpha - \beta}$$

である。ゆえに,

$$\begin{aligned}\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{F_{n-1}}{F_n} &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{\alpha^{n-1} - \beta^{n-1}}{\alpha^n - \beta^n} \\ &= \frac{1}{\alpha} \\ \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{F_n F_{n-1}} &= 0\end{aligned}$$

から,

$$\begin{aligned}\lim_{n \rightarrow \infty} \int_0^1 g_n(x) dx &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{F_{n-1}}{F_n} \\ &= \frac{1}{\alpha} \\ &= \frac{\sqrt{5} - 1}{2}\end{aligned}$$

問 題 33

《解答》

1 以上の整数 p, q に対して, 関数 $f_{p,q}(x)$ を

$$f_{p,q}(x) = x^p(1-x)^q$$

と定める.

その導関数は

$$f'_{p,q}(x) = px^{p-1}(1-x)^q - qx^p(1-x)^{q-1}$$

であるから, 方程式

$$f'_{p,q}(x) = 0$$

の実数解は

$$p(1-x) = qx$$

の実数解で, つまり

$$x = \frac{p}{p+q}$$

である.

したがって, 関数 $f_{p,q}(x)$ の $0 \leq x \leq 1$ における増減は

x	0	\cdots	$\frac{p}{p+q}$	\cdots	1
$f'_{p,q}(x)$		+	0	-	
$f_{p,q}(x)$	0	\nearrow	$\frac{p^p q^q}{(p+q)^{p+q}}$	\searrow	0

となる.

次に, 1 以上の整数 p, q に対して, 実数 $I_{p,q}$ を

$$I_{p,q} = \int_0^1 f_{p,q}(x) dx$$

と定める.

すると, 部分積分により

$$\begin{aligned}
 I_{p,q} &= \int_0^1 x^p(1-x)^q dx \\
 &= \left[\frac{1}{p+1} x^{p+1}(1-x)^q \right]_0^1 + \frac{q}{p+1} \int_0^1 x^{p+1}(1-x)^{q-1} dx \\
 &= \frac{q}{p+1} \int_0^1 x^{p+1}(1-x)^{q-1} dx \\
 &= \vdots \\
 &= \frac{(q)(q-1)\cdots(1)}{(p+1)(p+2)\cdots(p+q)} \int_0^1 x^{p+q} dx \\
 &= \frac{(q)(q-1)\cdots(1)}{(p+1)(p+2)\cdots(p+q)(p+q+1)} \\
 &= \frac{p!q!}{(p+q+1)!}
 \end{aligned}$$

と計算できる.

よって,

$$\begin{aligned}
\sqrt[n]{a_n C_{bn}} &= \left(\frac{(an)!}{(bn)!(an-bn)!} \right)^{\frac{1}{n}} \\
&= \frac{1}{\left(\frac{(bn)!(an-bn)!}{(an+1)!} \right)^{\frac{1}{n}}} \cdot \frac{1}{(an+1)^{\frac{1}{n}}} \\
&= \frac{1}{\left(\int_0^1 x^{bn} (1-x)^{an-bn} dx \right)^{\frac{1}{n}}} \cdot \frac{1}{(an+1)^{\frac{1}{n}}} \\
&= \frac{1}{\left(\int_0^1 (f_{b,a-b}(x))^n dx \right)^{\frac{1}{n}}} \cdot \frac{1}{(an+1)^{\frac{1}{n}}}
\end{aligned}$$

が成り立つ.

以下, 二つの部分に分けて極限を求める.

(i) $\left(\int_0^1 (f_{b,a-b}(x))^n dx \right)^{\frac{1}{n}}$ について考える. 先に示した増減表より,

$$f_{b,a-b}\left(\frac{b}{a}\right) = \frac{b^b(a-b)^{a-b}}{a^a}$$

で, これが $0 \leq x \leq 1$ における $f_{b,a-b}(x)$ の最大値である. これを M とおく.

これより,

$$\begin{aligned}
&\left(\int_0^1 (f_{b,a-b}(x))^n dx \right)^{\frac{1}{n}} \\
&\leq \left(\int_0^1 M^n dx \right)^{\frac{1}{n}} \\
&= M
\end{aligned}$$

である.

次に, ε を

$$0 < \varepsilon < M$$

を満たすように任意にとる.

すると, 方程式

$$f_{b,a-b}(x) = M - \varepsilon$$

は, 増減表より $0 < x < 1$ の範囲にちょうど 2 つの解をもつので, それを l, r ($l < r$) とおく.

これより,

$$\begin{aligned}
&\left(\int_0^1 (f_{b,a-b}(x))^n dx \right)^{\frac{1}{n}} \\
&\geq \left(\int_l^r (f_{b,a-b}(x))^n dx \right)^{\frac{1}{n}} \\
&\geq \left(\int_l^r (M - \varepsilon)^n dx \right)^{\frac{1}{n}} \\
&= (r - l)^{\frac{1}{n}} (M - \varepsilon)
\end{aligned}$$

となる. ここで

$$\lim_{n \rightarrow \infty} (r - l)^{\frac{1}{n}} (M - \varepsilon) = M - \varepsilon$$

であるから、ある正の整数 N が存在して、

$$n \geq N \implies (M - \varepsilon) - (r - l)^{\frac{1}{n}} (M - \varepsilon) < \varepsilon$$

すなわち

$$n \geq N \implies M - 2\varepsilon \leq \left(\int_0^1 (f_{b,a-b}(x))^n dx \right)^{\frac{1}{n}}$$

が成り立つ.

以上から、任意の ε ($0 < \varepsilon < M$) に対して、ある正の整数 N が存在して、

$$n \geq N \implies M - 2\varepsilon \leq \left(\int_0^1 (f_{b,a-b}(x))^n dx \right)^{\frac{1}{n}} \leq M$$

となるから、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \left(\int_0^1 (f_{b,a-b}(x))^n dx \right)^{\frac{1}{n}} = M = \frac{b^b(a-b)^{a-b}}{a^a}$$

である.

(ii) $(an+1)^{\frac{1}{n}}$ について考えると、

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} (an+1)^{\frac{1}{n}} &= \lim_{n \rightarrow \infty} \left((an+1)^{\frac{1}{an+1}} \right)^{a+\frac{1}{n}} \\ &= 1 \end{aligned}$$

である.

以上から、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \sqrt[n]{an C_{bn}} = \frac{a^a}{b^b(a-b)^{a-b}}$$

である.

《別解》

対数をとって整理すると $\sum \log$ が出現する. 対数が単調増加であることより上下から $\int \log$ で評価できるので、慎重に不等式評価を行なっていく.

問 題 34

任意の実数 x に対して、平均値の定理から、

$$|\sin(f_n(x)) - 0| \leq |\cos c_1| |f_n(x) - 0|$$

なる実数 c_1 が 0 と x の中間に存在する. $|\sin c_2| < 1$ であることと $\sin(f_n(x)) = f_{n+1}(x)$ であることに注意して、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} f_n(x) = 0$$

を得る. 一方, d を

$$\cos d = d$$

となる実数として定めれば、任意の実数 x に対して、平均値の定理から、

$$|\cos(g_n(x)) - d| \leq |\sin c_2| |g_n(x) - d|$$

なる c_2 が d と x の中間に存在する. $|\sin c_2| < 1$ であることと $\cos(g_n(x)) = g_{n+1}(x)$ であることに注意して、 $|g_n(x) - d|$ は $n \rightarrow \infty$ で 0 に収束すること、すなわち

$$\lim_{n \rightarrow \infty} g_n(x) = d$$

を得る. したがって、ある番号以降で、任意の x に対して

$$|f_n(x)| < \frac{d}{2} \quad \text{および} \quad |g_n(x) - d| < \frac{d}{2}$$

となる. このとき、任意の x で

$$f_n(x) < \frac{d}{2} < g_n(x)$$

であるから、 $f_n(x) = g_n(x)$ は解をもたない. これで問の前半部分は示された.

次に、関数 $h_n(x)$ を

$$h_n(x) = g_n(x) - f_n(x)$$

で定める.

[1] $n = 1$ のとき、方程式 $f_1(x) = g_1(x)$ すなわち $\cos x = \sin x$ は少なくとも一つの解 $x = \frac{\pi}{4}$ をもつ.

[2] $n = 2$ のとき、

$$\begin{aligned} h_2(x) &= \cos(\cos x) - \sin(\sin x) \\ &= 2 \sin \left[-\frac{1}{2}(\cos x + \sin x) + \frac{\pi}{4} \right] \sin \left[\frac{1}{2}(\cos x - \sin x) + \frac{\pi}{4} \right] > 0. \end{aligned}$$

最後の不等号は、 $0 \leq x < 2\pi$ のとき $-\sqrt{2} \leq \cos x \pm \sin x \leq \sqrt{2}$ であること、および

$$\frac{\pi}{4} - \frac{\sqrt{2}}{2} = \frac{\pi}{4} - \sin \frac{\pi}{4} > 0, \quad \frac{\pi}{4} + \frac{\sqrt{2}}{2} > 0$$

であることから従う. したがって、 $f_2(x) = g_2(x)$ は解をもたない.

[3] $n = 3$ のとき. 多項式

$$P(x) = x^2 - 2x - 4$$

の根は $x = 1 \pm \sqrt{5}$, したがって

$$P(x) < 0 \iff 1 - \sqrt{5} < x < 1 + \sqrt{5}. \quad (\text{式 A})$$

さて

$$\left(\frac{15}{7}\right)^2 < 5 \quad \text{故に} \quad \frac{15}{7} < \sqrt{5} \quad \text{したがって} \quad \frac{22}{7} < \sqrt{5} + 1.$$

そして

$$0 < \int_0^1 \frac{x^4(1-x)^4}{1+x^2} = \frac{22}{7} - \pi$$

以上より

$$\pi < \frac{22}{7} < \sqrt{5} + 1.$$

これと (式 A) より

$$\pi^2 - 2\pi - 4 < 0 \quad \text{故に} \quad \frac{2}{\pi} > \frac{\pi}{2} - 1.$$

ここで $0 < x < \frac{\pi}{2}$ において $\frac{d^2}{dx^2} \sin x = -\sin x < 0$, また

$$\sin 0 = \frac{2}{\pi} \cdot 0 = 0, \quad \sin \frac{\pi}{2} = \frac{2}{\pi} \cdot \frac{\pi}{2} = 1$$

であるから,

$$\sin x > \frac{2}{\pi}x.$$

以上から

$$\sin 1 > \frac{2}{\pi} > \frac{\pi}{2} - 1.$$

故に

$$\sin(\sin 1) > \sin\left(\frac{\pi}{2} - 1\right) = \cos 1.$$

これより

$$h_3\left(\frac{\pi}{2}\right) = \cos\left(\cos\left(\cos\frac{\pi}{2}\right)\right) - \sin\left(\sin\left(\sin\frac{\pi}{2}\right)\right) = \cos 1 - \sin(\sin 1) < 0.$$

また

$$h_3(0) = \cos(\cos(\cos 0)) - \sin(\sin(\sin 0)) = \cos(\cos 1) > 0.$$

関数 $h_3(x)$ は区間 $\left[0, \frac{\pi}{2}\right]$ で連続で, $h_3(0) > 0 > h_3\left(\frac{\pi}{2}\right)$ であるから,

$$h_3(x_0) = 0$$

なる x_0 がこの区間において存在する。この x_0 において

$$f_3(x_0) = g_3(x_0).$$

以上から, 求める n の値は,

$$\boxed{n = 1, 3}$$

である。これが問の後半部分である。

各 $n \geq 3$ に対し S_n は,

$$\begin{aligned} S_n &= n \times \left(\text{底辺の長さが1で頂角の大きさが} \frac{2\pi}{n} \text{の二等辺三角形の面積} \right) \\ &= n \times \left(\frac{1}{2} \times 1 \times \frac{1}{2 \tan \frac{\pi}{n}} \right) \\ &= \frac{n}{4 \tan \frac{\pi}{n}} \end{aligned}$$

と表せられ,

$$S_n = \frac{n}{4 \tan \frac{\pi}{n}} < \frac{n}{4 \tan \frac{\pi}{n+1}} < \frac{n+1}{4 \tan \frac{\pi}{n+1}} = S_{n+1}$$

となるので, S_n は n に関して狭義単調増加する. よって,

$$S_m < \pi < S_{m+1}$$

となるような 3 以上の整数 m が 1 つ見つければ, 求める n は $m+1$ である. 実は,

$$S_6 < \pi < S_7 \tag{1}$$

が成り立つ. 以下, これを示していこう.

まずは, $S_6 < \pi$ を示す. これは以下のように示せる:

$$S_6 = \frac{3\sqrt{3}}{2} < \frac{3 \times 1.8}{2} = 2.7 < \pi$$

次に $\pi < S_7$ を示す. この不等式は

$$4\pi \tan \frac{\pi}{7} < 7 \tag{2}$$

と同値なので, これを示せばよい. $y = \tan x$ のグラフの凸性から,

$$4\pi \tan \frac{\pi}{7} < 4\pi \times \left(\frac{6}{7} \tan \frac{\pi}{6} \right) = \frac{8\sqrt{3}}{7}\pi$$

となるので,

$$4\pi \tan \frac{\pi}{7} < \frac{8 \times 1.8 \times 3.2}{7} = \frac{46.08}{7} < \frac{49}{7} = 7$$

と (2) の評価でき, $\pi < S_7$ が示せた.

以上より, (1) が示せたので, 求める n は $n=7$ である.

問題 36

三点 O と P と Q の座標は、それぞれ

- O(0, 0)
- P(2t, 0)
- Q(t, $\sqrt{1-t^2}$)

である.

t が $0 \leq t \leq 1$ を満たして動くときの折れ線 OQP が動く領域を求めるために、線分 OQ と線分 PQ が動く領域をそれぞれ求め、あとでその和集合を求めればよい.

(A) 線分 OQ が動く領域を求める. これは容易で、半円

$$0 \leq y \leq \sqrt{1-x^2} \quad (0 \leq x \leq 1)$$

である.

(B) 線分 PQ が動く領域を求める.

まず直線 PQ が動く領域のうち $0 \leq x \leq 1$ を満たす部分を求める.

(i) $t = 0$ のとき、直線 PQ の式は

$$x = 0$$

である.

(ii) $0 < t \leq 1$ のとき、直線 PQ の式は

$$y = -\frac{\sqrt{1-t^2}}{t}(x-2t)$$

すなわち

$$y = -\frac{\sqrt{1-t^2}}{t}x + 2\sqrt{1-t^2}$$

である. この右辺を $f(x, t)$ とおく.

t が $0 < t \leq 1$ を満たして動くときのこの直線の通過領域は、 $\cos p = t$ とおくことで、実数 p が

$$0 \leq p < \frac{\pi}{2}$$

を満たして動くときの直線

$$y = -(\tan p)x + 2(\sin p)$$

の通過領域と同じである.

それを求めるために、固定された各実数 x ($0 < x \leq 2$) に対して y の動く範囲を求める.

式

$$y = -(\tan p)x + 2(\sin p)$$

を p について微分すると

$$\frac{dy}{dp} = -\frac{1}{(\cos p)^2}x + 2(\cos p)$$

すなわち

$$\frac{dy}{dp} = \frac{2(\cos p)^3 - x}{(\cos p)^2}$$

を得る.

ここで、いまは $0 < x \leq 2$ で考えているから、ある実数 p_0 が存在して

$$0 \leq p_0 < \frac{\pi}{2}$$

かつ

$$\cos(p_0) = \sqrt[3]{\frac{x}{2}}$$

を満たし、これを用いると p が動くときの y の増減は

p	0	...	p_0	...	$\left(\frac{\pi}{2}\right)$
$\frac{dy}{dp}$		+	0	-	
y	0	↗	(max)	↘	$(-\infty)$

となる.

したがって t が動くときの y の増減は

t	(0)	...	$\sqrt[3]{\frac{x}{2}}$...	1
y	$(-\infty)$	↗	(max)	↘	0

となる.

さて、今求めたのは直線 PQ の動く領域についてであるから、線分 PQ の動く領域について考えるには t の変域を

$$\frac{x}{2} \leq t \leq x$$

に制限しなければならない.

- 不等式

$$\frac{x}{2} \leq \sqrt[3]{\frac{x}{2}}$$

について考える. 両辺を 3 乗しても解は変わらないから

$$\frac{x^3}{8} \leq \frac{x}{2}$$

を解けばよい. 今考えている $0 < x \leq 2$ の範囲では、これは常に成立する.

- 不等式

$$\sqrt[3]{\frac{x}{2}} \leq x$$

について考える. 両辺を 3 乗しても解は変わらないから

$$\frac{x}{2} \leq x^3$$

を解けばよい. 今考えている $0 < x \leq 2$ の範囲では、

$$\frac{\sqrt{2}}{2} \leq x \leq 2$$

のときかつそのときに限りこの不等式が成り立つ.

したがって増減表より, y の動く範囲は,

$$0 < x < \frac{\sqrt{2}}{2}$$

のとき

$$f\left(x, \frac{x}{2}\right) \leq y \leq f(x, x)$$

であり,

$$\frac{\sqrt{2}}{2} \leq x \leq 2$$

のとき

$$\min\left(f\left(x, \frac{x}{2}\right), f(x, x)\right) \leq y \leq f\left(x, \sqrt[3]{\frac{x}{2}}\right)$$

である.

また, 各値については

$$\begin{aligned} f\left(x, \frac{x}{2}\right) &= -\frac{\sqrt{1-\left(\frac{x}{2}\right)^2}}{\left(\frac{x}{2}\right)}x + 2\sqrt{1-\left(\frac{x}{2}\right)^2} \\ &= 0, \\ f(x, x) &= -\frac{\sqrt{1-x^2}}{x}x + 2\sqrt{1-x^2} \\ &= \sqrt{1-x^2}, \\ f\left(x, \sqrt[3]{\frac{x}{2}}\right) &= -\frac{\sqrt{1-\left(\sqrt[3]{\frac{x}{2}}\right)^2}}{\sqrt[3]{\frac{x}{2}}}x + 2\sqrt{1-\left(\sqrt[3]{\frac{x}{2}}\right)^2} \\ &= -\sqrt[3]{2x^2}\sqrt{1-\sqrt[3]{\left(\frac{x}{2}\right)^2}} + 2\sqrt{1-\sqrt[3]{\left(\frac{x}{2}\right)^2}} \\ &= -\sqrt[3]{x^2}\sqrt{\sqrt[3]{4}-\sqrt[3]{x^2}} + \sqrt[3]{4}\sqrt{\sqrt[3]{4}-\sqrt[3]{x^2}} \\ &= \left(\sqrt[3]{4}-\sqrt[3]{x^2}\right)\sqrt{\sqrt[3]{4}-\sqrt[3]{x^2}} \\ &= \left(2^{\frac{2}{3}}-x^{\frac{2}{3}}\right)^{\frac{3}{2}} \end{aligned}$$

と求められる.

以上から, 線分 PQ が動く領域は

$$\begin{cases} 0 \leq y \leq \sqrt{1-x^2} & \left(0 \leq x \leq \frac{\sqrt{2}}{2}\right) \\ 0 \leq y \leq \left(2^{\frac{2}{3}}-x^{\frac{2}{3}}\right)^{\frac{3}{2}} & \left(\frac{\sqrt{2}}{2} \leq x \leq 2\right) \end{cases}$$

と書ける.

また, $0 \leq x \leq 1$ のとき

$$\begin{aligned} &\left(2^{\frac{2}{3}}-x^{\frac{2}{3}}\right)^{\frac{3}{2}} \\ &= \sqrt{2^2-3 \cdot 2^{\frac{4}{3}}x^{\frac{2}{3}}+3 \cdot 2^{\frac{2}{3}}x^{\frac{4}{3}}-x^2} \\ &= \sqrt{4-6 \cdot 2^{\frac{1}{3}}x^{\frac{2}{3}}+3 \cdot 2^{\frac{2}{3}}x^{\frac{4}{3}}-x^2} \\ &= \sqrt{3\left(2^{\frac{1}{3}}x^{\frac{2}{3}}-1\right)^2+1-x^2} \\ &\geq \sqrt{1-x^2} \end{aligned}$$

であるから、線分 OQ の通過領域は線分 PQ の通過領域に包含される。

よって、求める領域は

$$\begin{cases} 0 \leq y \leq \sqrt{1-x^2} & \left(0 \leq x \leq \frac{\sqrt{2}}{2}\right) \\ 0 \leq y \leq \left(2^{\frac{2}{3}} - x^{\frac{2}{3}}\right)^{\frac{3}{2}} & \left(\frac{\sqrt{2}}{2} \leq x \leq 2\right) \end{cases}$$

である。

次に、面積を求める。

面積を定積分を用いて書くと

$$\int_0^{\frac{\sqrt{2}}{2}} \sqrt{1-x^2} dx + \int_{\frac{\sqrt{2}}{2}}^2 \left(2^{\frac{2}{3}} - x^{\frac{2}{3}}\right)^{\frac{3}{2}} dx$$

となる。ここにある二つの定積分を、それぞれ I_1, I_2 と書くことにする。

(i) I_1 を求める。これは $x = \sin \theta$ の置換により

$$\begin{aligned} I_1 &= \int_0^{\frac{\sqrt{2}}{2}} \sqrt{1-x^2} dx \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} \sqrt{1-\sin^2 \theta} \cos \theta d\theta \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} \cos^2 \theta d\theta \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{4}} \frac{1+\cos 2\theta}{2} d\theta \\ &= \left[\frac{\theta}{2} + \frac{\sin 2\theta}{4} \right]_0^{\frac{\pi}{4}} \\ &= \frac{\pi}{8} + \frac{1}{4} \end{aligned}$$

と計算できる。

(ii) I_2 を求める。まず、

$$\frac{x}{2} = (\cos \theta)^3$$

と置換することで

$$\begin{aligned} I_2 &= \int_{\frac{\sqrt{2}}{2}}^2 \left(2^{\frac{2}{3}} - x^{\frac{2}{3}}\right)^{\frac{3}{2}} dx \\ &= \int_{\frac{\pi}{4}}^0 \left(2^{\frac{2}{3}} - 2^{\frac{2}{3}} \cos^2 \theta\right)^{\frac{3}{2}} \left(2 \cdot 3 (\cos \theta)^2 \cdot (-\sin \theta)\right) d\theta \\ &= 12 \int_0^{\frac{\pi}{4}} (\cos \theta)^2 (\sin \theta)^4 d\theta \end{aligned}$$

と変形できる。

これは三角関数の公式を用いて

$$\begin{aligned} I_2 &= 12 \int_0^{\frac{\pi}{4}} (\cos \theta)^2 (\sin \theta)^4 d\theta \\ &= 12 \int_0^{\frac{\pi}{4}} \frac{1 + \cos 2\theta}{2} \left(\frac{1 - \cos 2\theta}{2} \right)^2 d\theta \\ &= \frac{3}{2} \int_0^{\frac{\pi}{4}} (1 - \cos^2 2\theta) (1 - \cos 2\theta) d\theta \\ &= \frac{3}{2} \int_0^{\frac{\pi}{4}} (\sin^2 2\theta) (1 - \cos 2\theta) d\theta \\ &= \frac{3}{2} \int_0^{\frac{\pi}{4}} \sin^2 2\theta d\theta - \frac{3}{4} \int_0^{\frac{\pi}{4}} (\sin^2 2\theta) (2 \cos 2\theta) d\theta \\ &= \frac{3}{2} \int_0^{\frac{\pi}{4}} \frac{1 - \cos 4\theta}{2} d\theta - \frac{3}{4} \int_0^1 t^2 dt \\ &= \frac{3}{2} \left[\frac{\theta}{2} - \frac{\sin 4\theta}{8} \right]_0^{\frac{\pi}{4}} - \frac{1}{4} [t^3]_0^1 \\ &= \frac{3}{16} \pi - \frac{1}{4} \end{aligned}$$

と計算できる.

以上二つを足して, 求める面積は

$$\begin{aligned} I_1 + I_2 &= \left(\frac{\pi}{8} + \frac{1}{4} \right) + \left(\frac{3}{16} \pi - \frac{1}{4} \right) \\ &= \frac{5\pi}{16} \end{aligned}$$

である.

【解答】

(1) $y' - (\sin x)y = 0$ より $y = 0$ のとき適し, そうでないときは

$$\frac{1}{y} \frac{dy}{dx} = \sin x$$

となるから両辺 x で積分して

$$\log |y| = -\cos x + C_1 \quad (C_1 \text{ は定数})$$

が得られる.

よって,

$$y = Ce^{-\cos x} \quad (C \text{ は定数})$$

である.

(2) $y' - (\sin x)y = \sin(x + \sin x)$ について, 右辺に加法定理を適用することで

$$y' - (\sin x)y = \sin(x) \cos(\sin x) + \cos(x) \sin(\sin x)$$

すなわち

$$(\sin x)(-y) + y' = \sin(x) \cos(\sin x) + \cos(x) \sin(\sin x)$$

よって, 微分方程式の一つの解として

$$y = -\cos(\sin x)$$

が見つかる.

(3) 問 (2) より, 微分方程式 $y' - (\sin x)y = \sin(x + \sin x)$ は

$$(y + \cos(\sin x))' - (\sin x)(y + \cos(\sin x)) = 0$$

と変形できる.

これは問 (1) より解けて,

$$y + \cos(\sin x) = Ce^{-\cos x} \quad (C \text{ は定数})$$

すなわち

$$y = -\cos(\sin x) + Ce^{-\cos x} \quad (C \text{ は定数})$$

である.

(4) 微分方程式 $y' - (\sin x)y = \sin(x + \sin x)$ の両辺に $e^{\cos x}$ をかけると

$$y'e^{\cos x} - (\sin x)ye^{\cos x} = e^{\cos x} \sin(x + \sin x)$$

すなわち

$$(ye^{\cos x})' = e^{\cos x} \sin(x + \sin x)$$

が得られる.

よって,

$$ye^{\cos x} = \int e^{\cos x} \sin(x + \sin x) dx$$

となる.

左辺は問 (3) より

$$ye^{\cos x} = -e^{\cos x} \cos(\sin x) + C \quad (C \text{ は定数})$$

であるから, 右辺についても

$$\int e^{\cos x} \sin(x + \sin x) dx = -e^{\cos x} \cos(\sin x) + C \quad (C \text{ は定数})$$

が成り立つ.

よって, 求めるべき不定積分は

$$-e^{\cos x} \cos(\sin x) + C \quad (C \text{ は定数})$$

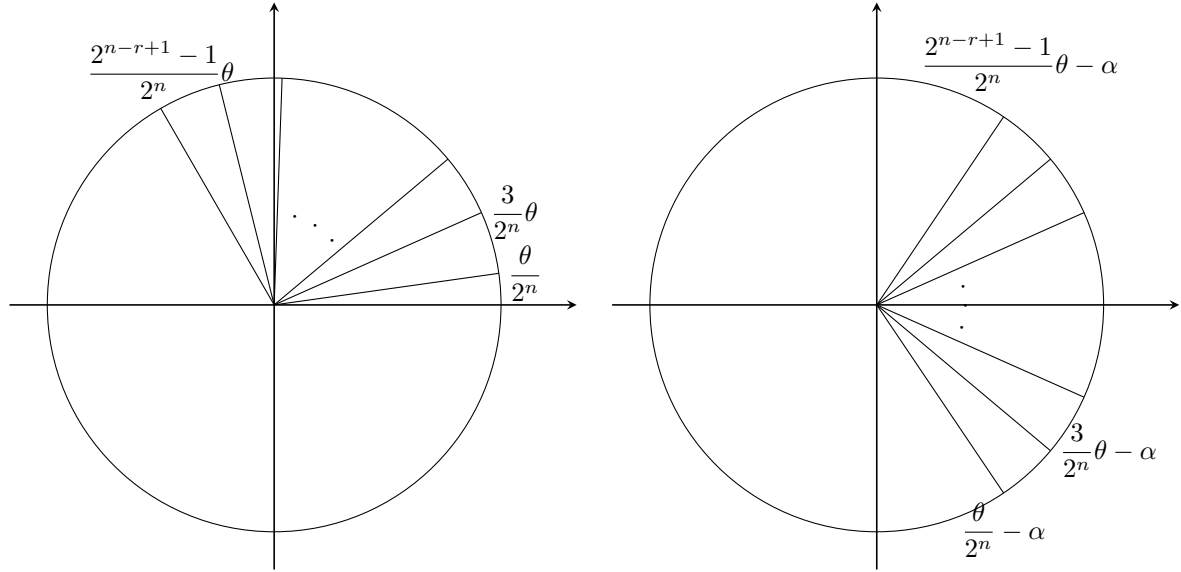
である.

$$\frac{\sum_{k=1}^{2^{n-r}} \sin \frac{2k-1}{2^n} \theta}{\sum_{k=1}^{2^{n-r}} \cos \frac{2k-1}{2^n} \theta} = l(n, r, \theta) \text{ とする。}$$

$$\sum_{k=1}^{2^{n-r}} \sin \frac{2k-1}{2^n} \theta = l \sum_{k=1}^{2^{n-r}} \cos \frac{2k-1}{2^n} \theta$$

$$\sum_{k=1}^{2^{n-r}} \left(\sin \frac{2k-1}{2^n} \theta - l \cos \frac{2k-1}{2^n} \theta \right) = 0$$

$$\sum_{k=1}^{2^{n-r}} \sin \left(\frac{2k-1}{2^n} \theta - \alpha \right) = 0 \quad \left(\cos \alpha = \frac{1}{\sqrt{l^2 + 1}}, \sin \alpha = \frac{l}{\sqrt{l^2 + 1}} \right)$$



図の

ように、 $\frac{2^{n-r+1}-1}{2^n} \theta - \alpha = -\left(\frac{\theta}{2^n} - \alpha\right)$ となるような α を取れば、各項が打ち消し合い、等式が成り立つ。

$$\therefore \alpha = \frac{\theta}{2^r}$$

$$\therefore l = \tan \frac{\theta}{2^r}$$

$$\therefore S = \sum_{r=1}^n \frac{1}{2^r} \frac{\sum_{k=1}^{2^{n-r}} \sin \frac{2k-1}{2^n} \theta}{\sum_{k=1}^{2^{n-r}} \cos \frac{2k-1}{2^n} \theta} = \sum_{r=1}^n \frac{1}{2^r} \tan \frac{\theta}{2^r}$$

$$\begin{aligned} \int S d\theta &= \sum_{r=1}^n \frac{1}{2^r} \int \tan \frac{\theta}{2^r} d\theta \\ &= -\sum_{r=1}^n \log \left| \cos \frac{\theta}{2^r} \right| + C \\ &= -\log \left| \prod_{r=1}^n \cos \frac{\theta}{2^r} \right| + C \end{aligned}$$

ここで、

$$\begin{aligned}\sin \theta &= 2 \sin \frac{\theta}{2} \cos \frac{\theta}{2} \\ &= 4 \sin \frac{\theta}{4} \cos \frac{\theta}{4} \cos \frac{\theta}{2} \\ &\vdots \\ &= 2^n \sin \frac{\theta}{2^n} \prod_{r=1}^n \cos \frac{\theta}{2^r}\end{aligned}$$

$$\therefore \prod_{r=1}^n \cos \frac{\theta}{2^r} = \frac{\sin \theta}{2^n \sin \frac{\theta}{2^n}}$$

$$\begin{aligned}\therefore S &= -\frac{\partial}{\partial \theta} \log \left| \frac{\sin \theta}{2^n \sin \frac{\theta}{2^n}} \right| + C \\ &= \frac{1}{2^n \tan \frac{\theta}{2^n}} - \frac{1}{\tan \theta}\end{aligned}$$

問 題 39

$0 < x < \frac{\pi}{2}$ に対して関数 $f(x)$ を

$$f(x) = (\cos x)^{(\cos x)} + (\sin x)^{(\sin x)}$$

と定める。

このとき、導関数は

$$\begin{aligned} f'(x) &= \frac{d}{dx} \left((\cos x)^{(\cos x)} + (\sin x)^{(\sin x)} \right) \\ &= \frac{d}{dx} \left(e^{(\cos x) \log_e (\cos x)} + e^{(\sin x) \log_e (\sin x)} \right) \\ &= e^{(\cos x) \log_e (\cos x)} \left(-(\sin x) \log_e (\cos x) + (\cos x) \cdot \frac{-\sin x}{\cos x} \right) \\ &\quad + e^{(\sin x) \log_e (\sin x)} \left((\cos x) \log_e (\sin x) + (\sin x) \cdot \frac{\cos x}{\sin x} \right) \\ &= (\cos x)^{(\cos x)} (-(\sin x) \log_e (\cos x) - \sin x) \\ &\quad + (\sin x)^{(\sin x)} ((\cos x) \log_e (\sin x) + \cos x) \\ &= (\sin x) (\cos x) \left(\frac{(\sin x)^{(\sin x)} (\log_e (\sin x) + 1)}{\sin x} - \frac{(\cos x)^{(\cos x)} (\log_e (\cos x) + 1)}{\cos x} \right) \end{aligned}$$

となる。

ここで、 $0 < t < 1$ に対して関数 $g(t)$ を

$$g(t) = \frac{t^t (\log_e t + 1)}{t}$$

と定めると

$$f'(x) = (\sin x) (\cos x) (g(\sin x) - g(\cos x))$$

となる。

このとき、 g の導関数は

$$\begin{aligned}
 g'(t) &= \frac{d}{dt} \frac{t^t (\log_e t + 1)}{t} \\
 &= \frac{d}{dt} t^{t-1} (\log_e t + 1) \\
 &= \left(\frac{d}{dt} t^{t-1} \right) (\log_e t + 1) + t^{t-1} \left(\frac{d}{dt} (\log_e t + 1) \right) \\
 &= \left(\frac{d}{dt} e^{(t-1) \log_e t} \right) (\log_e t + 1) + t^{t-1} \left(\frac{d}{dt} (\log_e t + 1) \right) \\
 &= \left(e^{(t-1) \log_e t} \left(\log_e t + (t-1) \cdot \frac{1}{t} \right) \right) (\log_e t + 1) + t^{t-1} \left(\frac{1}{t} \right) \\
 &= t^{t-1} \left(\log_e t + 1 - \frac{1}{t} \right) (\log_e t + 1) + t^{t-2} \\
 &= t^{t-2} \left((t \log_e t + t - 1) (\log_e t + 1) + 1 \right) \\
 &= t^{t-2} \left(t (\log_e t + 1)^2 - \log_e t \right) \\
 &> 0 \quad (\because \log_e t < 0)
 \end{aligned}$$

となるから、 $g(t)$ は t に対して単調に増加する。

これより、 $0 < a < 1$, $0 < b < 1$ を満たす実数 a, b に対して

$$g(a) = g(b) \implies a = b$$

ということになる。

$f(x)$ の導関数に戻ると、

$$f'(x) = (\sin x) (\cos x) (g(\sin x) - g(\cos x))$$

であったから、これが 0 になるのは

$$g(\sin x) = g(\cos x)$$

のときであり、今示したことよりこれは

$$\sin x = \cos x$$

と同値である。

すなわち、

$$f'(x) = 0 \iff x = \frac{\pi}{4}$$

ということがわかる。

$g(t)$ が単調増加関数であったことから、 $f(x)$ の増減は

x	(0)	\cdots	$\frac{\pi}{4}$	\cdots	$\left(\frac{\pi}{2}\right)$
$f'(x)$		$-$	0	$+$	
$f(x)$		\searrow	(最小)	\nearrow	

となる。

これより、 $f(x)$ の最小値は

$$f\left(\frac{\pi}{4}\right) = \left(\cos \frac{\pi}{4}\right)^{\left(\cos \frac{\pi}{4}\right)} + \left(\sin \frac{\pi}{4}\right)^{\left(\sin \frac{\pi}{4}\right)}$$

$$= \left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)^{\left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)} + \left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)^{\left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)}$$

$$= 2 \left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)^{\left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)}$$

$$= 2 \left(2^{-\frac{1}{2}}\right)^{\left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)}$$

$$= 2^{\left(1 - \frac{1}{2\sqrt{2}}\right)}$$

$$= \boxed{2^{\left(\frac{4-\sqrt{2}}{4}\right)}}$$

である。

【コメント】

与えられた式を x で微分した後、微分係数が 0 になる点を求めるための変形が特徴的です。うまく \cos と \sin を分けることで、 g の導入により解決できる形になります。

問 題 40

(1) 問 (2) に含まれるので略。

(2) 任意の自然数 k に対し,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \left(\frac{n}{n+1} \right)^k = 1$$

であるから、極限は常に 1 で一定になる。

(3) 極限值は

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} f(n, n) &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{n^n}{(n+1)^n} \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \left(\left(1 - \frac{1}{n+1} \right)^{n+1} \right)^{1 - \frac{1}{n+1}} \\ &= \frac{1}{e} \end{aligned}$$

である。